

事例 10

●性 別 ……………女性

●年 齢 ……………83 歳

●介護環境 ……………居宅

●最も類似する状態像の例 ……… 1－4

●要介護度変更 ……………要介護 2→要介護 1

●審査及び判定の概要

末梢性めまい及び著しい視力低下を来している事例。

認定審査会では、特記事項及び主治医意見書から、「筋力低下は軽度であり、動作の多くはなんとか自立できているのではないか」との意見がある一方、「夜間頻尿に対しても介護の必要性が高いのではないか」との意見もあった。状態像の例との比較に基づき、要介護 1 に変更した。

介護審査会資料

申請区分：新規申請
被保険者区分：第1号被保険者

年齢：83
性別：女
過去の認定審査会結果：なし
前回認定有効期間：なし
前回介護保険審査会結果：なし
一次判定結果：要介護2
要介護認定等基準時間：53分
機能訓練+間接生活介助：12分
一次判定警告コード：

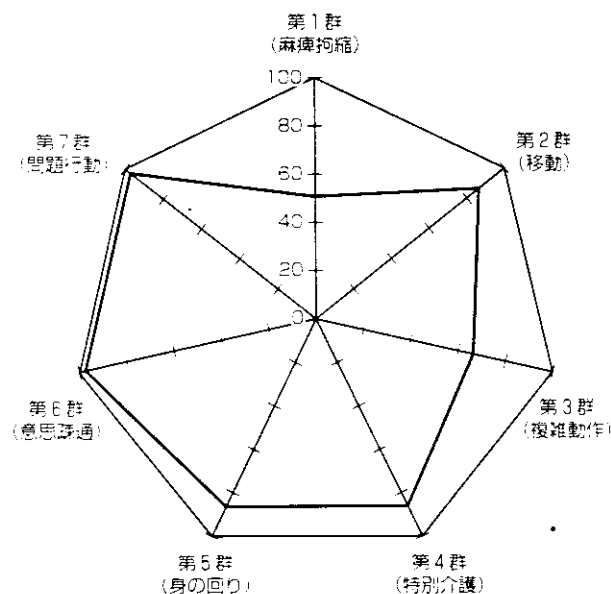
--	--	--	--

現在の状況
訪問介護（ホームヘルプサービス）：0回/月
訪問入浴介護：0回/月
訪問看護：0回/月
訪問リハビリテーション：0回/月
居宅療養管理指導：0回/月
通所介護（デイサービス）：8回/月
通所リハビリテーション（デイケア）：0回/月
福祉用具貸与：0品目
短期入所生活介護：0日/月
短期入所療養介護：0日/月
痴呆対応型共同生活介護：0日/月
特定施設入所者生活介護：0日/月
福祉用具購入：0品目/6月間
住宅改修：なし

障害老人自立度：J2

痴呆性老人自立度：正常

中間評価項目表



中間評価項目得点

第1群	第2群	第3群	第4群	第5群	第6群	第7群
51.4	86.5	67.4	85.4	86.8	98.4	98.1

＜特別な医療＞

点滴の管理
中心静脈採血
透析
ストーマの処置
酸素療法
レスピレーター
気管切開の処置
疼痛の看護
経管栄養
モニター測定
褥瘡の処置
カテーテル

第1群 (麻痺拘縮)
1. 麻痺 (左-上肢)
(右-上肢)
(左-下肢)
(右-下肢)
(その他)
2. 拘縮 (肩関節)
(肘関節)
(股関節)
(膝関節)
(足関節)
(その他)

ある
ある
ある
ある
ある
ある
ある
ある
ある
ある

第2群 (移動)
1. 寝返り
2. 起き上がり
3. 両足での座位
4. 両足つかない座位
5. 両足での立位
6. 歩行
7. 移乗

つかまれば可
つかまれば可
つかまれば可
つかまれば可
つかまれば可
つかまれば可
つかまれば可

第3群 (複雑動作)
1. 立ち上がり
2. 片足での立位
3. 浴槽の出入り
4. 洗身

支えが必要
支えが必要
支えが必要
支えが必要
一部介助

第4群 (特別介護)
1. ア. じよくそう
イ. 皮膚疾患
2. 片手胸元持ち上げ
3. 嚥下
4. ア. 尿意
イ. 便意
5. 排尿後の後始末
6. 排便後の後始末
7. 食事摂取

見守りが必要
見守りが必要
間接的援助
見守りが必要

第5群 (身の回り)
1. ア. 口腔清潔
イ. 洗顔
ウ. 髪
エ. つめ切り
2. ア. ボタンのかけはずし
イ. 上衣の着脱
ウ. スボン等の着脱
エ. 靴下の着脱
3. 居室の掃除
4. 糞の処理
5. 金銭の管理
6. ひどい物忘れ
7. 周囲への無関心

一部介助
一部介助
一部介助
一部介助
一部介助
一部介助
一部介助

第6群 (意思疎通)
1. 視力
2. 聴力
3. 意思の伝達
4. 指示への反応
5. ア. 毎日の日課を理解
イ. 生年月日をいう
ウ. 短期記憶
エ. 自分の名前をいう
オ. 今の季節を理解
カ. 場所の理解

1m先が見える
1m先が見える
1m先が見える
1m先が見える
1m先が見える
1m先が見える
1m先が見える

第7群 (問題行動)
ア. 被害的
イ. 作証
ウ. 幻視幻聴
エ. 感情が不安定
オ. 昼夜逆転
カ. 暴言暴行
キ. 同じ話を繰り返す
ク. 大声をだす
ケ. 介護に抵抗
コ. 常時の徘徊
サ. 落ち着きなし
シ. 外出して戻れない
ス. 一人で出かける
セ. 収集癖
ソ. 火の不始末
タ. 物や衣類を壊す
チ. 不潔行為
ツ. 異食行動
テ. 性的迷惑行動

ときどきある
ときどきある
ときどきある
ときどきある
ときどきある
ときどきある
ときどきある

認定調査票（特記事項）

1. 麻痺・拘縮に関連する項目についての特記事項

- (1-1 麻痺等の有無) 右上肢、手指、両下肢の筋力低下があり、食事、歩行等がスムーズにできない。
- (1-2 関節の動く範囲の制限の有無) 右肩関節の拘縮のため、胸元までしか持ち上げられない。膝関節炎による痛みで、とくに右膝関節の屈曲困難、腰部彎曲による体動困難がある。

2. 移動等に関連する項目についての特記事項

- (2-2 起き上がり) つかまればなんとか起き上がれそうだが、現在は布団を使用しているため、横向きになってから起きている（腰部彎曲、膝関節痛にて）。
- (2-6 歩行) 前屈姿勢での歩行で、室内は這ったり、つたい歩き。屋外はシルバーカーを使用。

3. 複雑な動作等に関連する項目についての特記事項

- (3-1 立ち上がり) 時間はかかるがつかまればなんとかできる。
- (3-3 一般家庭用浴槽の出入り) なんとかつかまってまぐ動作はできるが、不安定で、バランスをくずし転倒の危険があるため、見守り、または支えが必要。

4. 特別な介護等に関連する項目についての特記事項

- (4-2 片手胸元持ち上げ) 右手は胸元までやっどできる。左手は支障なし。
- (4-3 嚥下) もちを詰まらせたことが数回あり、見守りが必要。
- (4-5 排尿後の後始末) 動作が間に合わず、月に3～4回、尿漏れがある。トイレ周囲を汚すため、掃除が必要。
- (4-7 食事摂取) 右手挙上困難であり、手指に力が入らないため、こぼす。

5. 身の回りの世話等に関連する項目についての特記事項

- (5-1 エ つめ切り) 右手の力が入りにくいため、左手のつめは切ってもらことが多い。
- (5-2 衣服着脱) 右袖通し、ズボン、パンツの引き上げに時間がかかる。ボタンかけはできない。
- (5-4 薬の内服) 視力低下があるため、朝・昼・夜の薬の区別ができなかったり、こぼしても気がつかないため、介助が必要。

6. コミュニケーションに関連する項目についての特記事項

(6-1 視力) 右眼は失明状態。左眼は白内障で手術を勧められている。

7. 問題行動等に関連する項目についての特記事項

(オ 昼夜逆転) 週1～2日程度、不眠があり、そのため夜間頻尿で翌日ボーっとしている。

概況調査 IV

「調査対象者の主訴、家族状況、住居環境、虐待の有無等について特記すべき事項」

- ・ 高血圧で2週間毎に内科を受診。左眼白内障のため、月1回眼科受診。
- ・ 以前は頭のふらつきがあり、点滴をすることがあったが、現在は落ちついて
いる。
- ・ 両膝関節炎による右膝関節痛。右肩痛による右上肢挙上困難。臀部痛がある。

記入日 平成12年 3 月 〇 日

1. 傷病に関する意見

2. 特別な医療 (過去14日間以内に受けた医療のすべてにチェック)

3. 心身の状態に関する意見

70

(4) 精神・神経症状の有無
☐有 (症状名) ☒無
(有の場合) → 専門医受診の有無 ☐有 () ☒無

(5) 身体の状態
利き腕 (☒右 ☐左) 体重 = kg 身長 = cm 凡例

☐ 四肢欠損	(部位: 程度: ☐ 軽 ☐ 中 ☐ 重)	
☐ 麻痺	(部位: 程度: ☐ 軽 ☐ 中 ☐ 重)	
☒ 筋力の低下	(部位: 両下肢 程度: ☒ 軽 ☐ 中 ☐ 重)	
☐ 褥瘡	(部位: 程度: ☐ 軽 ☐ 中 ☐ 重)	
☐ その他皮膚疾患	(部位: 程度: ☐ 軽 ☐ 中 ☐ 重)	
☒ 関節の拘縮	・肩関節 ☒ 右 ☐ 左 ・股関節 ☐ 右 ☐ 左 ・肘関節 ☐ 右 ☐ 左 ・膝関節 ☒ 右 ☐ 左 ☐ 失調・不随意運動・上肢 ☐ 右 ☐ 左 ・体幹 ☐ 右 ☐ 左 ・下肢 ☐ 右 ☐ 左	

4. 介護に関する意見

(1) 現在、発生の可能性が高い病態とその対処方針
☐尿失禁 ☐転倒・骨折 ☐徘徊 ☐褥瘡 ☐嚥下性肺炎 ☐腸閉塞 ☐易感染性
☐心肺機能の低下 ☐痛み ☐脱水 ☐その他 ()
→ 対処方針 ()

(2) 医学的管理の必要性 (特に必要性の高いものには下線を引いて下さい)
☐訪問診療 ☒短期入所療養介護 ☐訪問栄養食事指導
☐訪問看護 ☐訪問歯科診療 ☐その他 ()
☐訪問リハビリテーション ☐訪問歯科衛生指導
☒通所リハビリテーション ☐訪問薬剤管理指導

(3) 介護サービス(入浴サービス、訪問介護等)における医学的観点からの留意事項
・ 血圧について ☐特になし ☒あり (内服中)
・ 嚥下について ☒特になし ☐あり ()
・ 摂食について ☒特になし ☐あり ()
・ 移動について ☒特になし ☐あり ()
・ その他 ()

(4) 感染症の有無 (有の場合は具体的に記入して下さい)
☐有 () ☒無 ☐不明

5. その他特記すべき事項

要介護認定に必要な医学的なご意見等をご記載して下さい。なお、専門医等に別途意見を求めた場合はその内容、結果も記載して下さい。(情報提供書や身体障害者申請診断書の写し等を添付して頂いても結構です。)

右視力 0.01 以下、手動弁。左視力 0.4 程度で、視力障害あり。